

●行政情報●

令和6年度食料・農業・農村白書の概要 ～いも類をめぐる状況について～

一般財団法人いも類振興会 需要推進部長 なかざわ 中澤 たて お 健雄

本年5月30日に令和6年度の食料・農業・農村白書（以下、農業白書という。）が公表された。農業白書では「新たな食料・農業・農村基本計画の策定」のほか、持続的な食料供給の実現に向け、コストを考慮した価格形成に係る環境整備等を内容とする「合理的な価格の形成のための取組を推進」、令和6（2024）年10月に施行されたスマート農業技術活用促進法に基づく取組等を内容とする「スマート農業技術の活用と今後の展望」の三つを特集として記述している。

また、トピックスでは令和6（2024）年度における特徴的な動きとして、「農林水産物・食品の輸出促進」のほか、「みどりの食料システム戦略の進展と消費者の行動変容」、「女性活躍の推進」、「農福連携の更なる推進」、「令和6年能登半島地震等への対応」の五つのテーマを取り上げている。

ついで第1部食料・農業・農村の動向第1章第2節我が国における食料の供給の部で主要な食料の生産状況が紹介されている。いも類に関する記述は以下のとおり。

トピックス3 女性活躍の推進より

事 例

農業界の発展を後押しする女性の活躍

株式会社農プロデュース リッツ(新潟県)



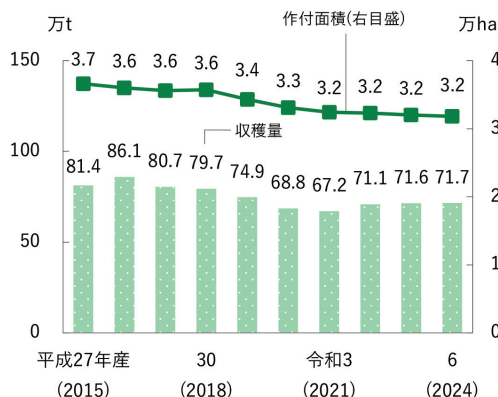
- ✓ 「株式会社農プロデュース リッツ」の代表取締役である新谷梨恵子さんは、さつまいもを通じて様々な事業を展開
- ✓ 農家レストランを経営しながら6次産業化プランナーとして活動し、相談者が実践できるよう配慮した助言を実施
- ✓ 学生を始めとした研修生の積極的な受入れや女性が働きやすい職場環境の整備を推進し、農業界の発展を後押し

(かんしょの収穫量は前年産並み)

令和6（2024）年産のかんしょの作付面積は、前年産に比べ0.6%減少し3万2千ha。一方、収穫量は前年産並みの71万7千tとなった。農林水産省では、共同利用施設の整備や省力化のための機械化体系確立等の取組を支援している。また、サツマイモ基腐病の発生・まん延の防止を図るため、土壌消毒、健全な苗の調達等を支援するとともに、苗や種イモの高感度スクリーニング技術、ほ場の発病リスク診断技術、発病リスクに応じた対策技術等の研究成果を踏まえつつ、防除技術の確立・普及に向けた取組を推進している。

なお、令和5（2023）年産のかんしょ生産において、一部のほ場でサツマイモ基腐病と異なる腐敗症状が確認されたことから、オープンイノベーション研究・実用化推進事業の緊急対応課題において、令和6（2024）年度は原因菌の特定と、効果的な防除対策の提案に向けて、農研機構が鹿児島県、宮崎県、鹿児島県経済農業協同組合連合会と連携して研究を行っている。

かんしょの作付面積と収穫量



資料：農林水産省「作物統計」

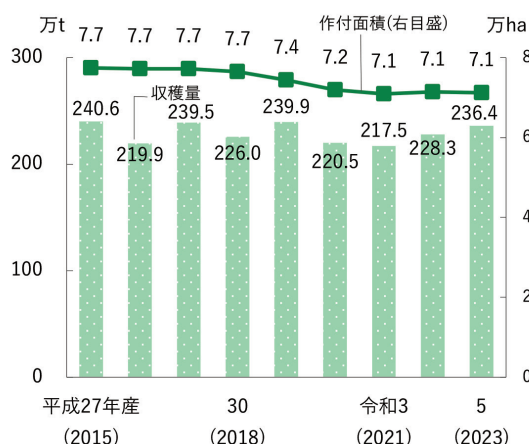
注：令和6（2024）年産の収穫量は概数値

(ばれいしょの収穫量は前年産に比べ増加)

令和5（2023）年産のばれいしょの作付面積は、前年産並みの7万1千haとなった。一方、収穫量は前年産に比べ3.5%増加し236万4千tとなった。農林水産省では省力化のための機械導入や収穫時の機上選別を倉庫前集中選別等に移行する取組を支援している。

また、ばれいしょ生産に必要な種ばれいしょの確保に向けた取組を支援するとともに、ジャガイモシストセンチュウ類（PCN）の発生・まん延の防止を図るため、共同施設の整備等の推進や抵抗性品種への転換を推進している。

ばれいしょの作付面積と収穫量



資料：農林水産省「野菜生産出荷統計」

最後に令和6年度に行ったかんしょ・ばれいしょの施策について以下のとおり紹介している。

かんしょについては、共同利用施設の整備や省力化のための機械化体系の確立等への取組を支援した。特にでん粉原料用かんしょについては、多収新品種への転換や生分解性マルチの導入、作業受委託体制の構築等の取組を支援した。また、サツマイモ

基腐病については、土壤消毒、健全な苗の調達等を支援するとともに、研究事業で得られた成果を踏まえつつ、防除技術の確立・普及に向けた取組を推進した。さらに、輸出の拡大を目指し、安定的な出荷に向けた施設の整備等を支援した。

ばれいしょについては、生産コストの低減、品質の向上、労働負担の軽減、ジャガイモシストセンチュウやジャガイモシロシストセンチュウの発生・まん延の防止を図るための共同利用施設の整備等を推進した。また、収穫作業の省力化のための倉庫前集中選別への移行やコントラクター等の育成による作業の外部化への取組を支援し

た、さらに、ジャガイモシストセンチュウやジャガイモシロシストセンチュウの抵抗性品種への転換を促進した。

種子用ばれいしょ生産については、罹病率の低減や作付面積増加のための取組を支援するとともに、原原種生産・配布において、配布品種数の削減による効率的な生産を推進することにより、種子用ばれいしょの品質向上と安定供給体制の構築を図った。

いもでん粉の高品質化に向けた品質管理の高度化等を支援するとともに糖価調整制度に基づく交付金により国内産いもでん粉の安定供給を推進した。